

注意: 「答」そのものは採点の対象にはしない。「答」に至る過程を採点の対象にする。したがって、答えは単に「答」を書くだけでなく「答」に至るまでの経緯を論理的に論述する事。

答案作成は数式も含め作文であるから、主語・述語・テニヲハ・句読点等に十分注意する事。

証明なしで定理・命題を使用するときはその正確な内容を明示する事。

採点は減点法を採用する。つまり間違いの内容によっては白紙答案より低い点数になる場合がある。careless miss でそのような事はないが、「分からなくても適当に何か書いておけ」という姿勢で回答するとそうなることがある。

1 次の問に答えよ。

(1) W が線型空間 V の部分空間である事の定義を述べよ。

(2) $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ に対し $T_A: K^4 \rightarrow K^4$ を $T(x) = Ax$ で定義する。 $W = \text{Ker}(T_A)$ とするとき W が K^4 の部分空間である事を示せ。

(3) ベクトルの有限集合 S が線型空間 W の基底である事の定義を述べよ。

(4) W の基底を自分で 1 つ選び、それが実際基底になっている事を示せ。

これは線形解析の復習問題です。

(1) V の部分集合 W が次の 3 つの条件を満たすとき、部分空間と呼ぶ。

(1) W は空集合ではない。

(2) W の任意のベクトル x, y に対し $x + y \in W$ が成立する。

(3) W の任意のベクトル x と任意のスカラー α に対し $\alpha x \in W$ が成立する。

(2) $W = \text{Ker}(T_A) = \{x \in K^4 \mid Ax = 0\}$ なので $A0 = 0$ より $0 \in W$ となり、 $W \neq \emptyset$ となる。 $x, y \in W$ とすると、 $Ax = 0, Ay = 0$ となっている。 $A(x+y) = Ax + Ay = 0 + 0 = 0$ なので、 $x + y \in W$ となる。 $x \in W$ と $\alpha \in K$ に対し $A(\alpha x) = \alpha(Ax) = \alpha 0 = 0$ なので $\alpha x \in W$ である。以上により W が部分空間である事が分かる。

(3) $S = \{x_1, x_2, \dots, x_n\}$ が V の基底であるとは

(1) x_1, x_2, \dots, x_n は 1 次独立であり、

(2) S は W を生成する、即ち $W = \langle S \rangle$ となる

の 2 つが成立する事をいう。

(4) $x_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ が W の基底である事を示す。 $x_1 \neq 0$ より x_1 は 1 次独立である。

$Ax_1 = 0$ なので $x_1 \in W$ となるので、 $\langle x_1 \rangle \subseteq W$ となる。逆に $x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix}$ を W の任意のベクトルとすると、 $Ax = 0$ より

$$\begin{aligned} y + z + w &= 0 \\ z + w &= 0 \\ w &= 0 \end{aligned}$$

となる。これより $y = z = w = 0$ となるので、

$$x = \begin{pmatrix} x \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = x \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = x x_1$$

が成立し、 $x \in \langle x_1 \rangle$ 、即ち $W \subseteq \langle x_1 \rangle$ となる。併せて $W = \langle x_1 \rangle$ となるので、 x_1 は W の基底になる。

裏にも問題あり、別紙にも問題あり

学		在		氏	
科		番		名	
		籍			
		号			

2 $V = C^\infty(\mathbf{R}; \mathbf{R})$ を実数で定義された実数に値をとる C^∞ 級関数のつくる集合とする。また $W = \{y \in V \mid y'' - 4y' + 5y = 0\}$ を V の元であって線型微分方程式 $y'' - 4y' + 5y = 0$ の解関数となるもの全体がつくる集合とする。次の問に答えよ。ただし次の定理は使用してよい。
 定理：初期値 $y(0) = a_0, y'(0) = a_1$ を 1 組与えると、その初期値を持つ微分方程式 $y'' + ay' + by = 0$ の解関数が唯 1 つ存在する。

- (1) W が V の部分空間である事を示せ。
- (2) y_1 を $y_1(0) = 1, y_1'(0) = 1$ となる W の元とする。 y_2 を $y_2(0) = 1, y_2'(0) = -1$ となる W の元とする。 y_1, y_2 が 1 次独立であるかどうか調べよ。
- (3) z_1 を $z_1(0) = -1, z_1'(0) = 1$ となる W の元とする。 z_2 を $z_2(0) = 1, z_2'(0) = -1$ となる W の元とする。 z_1, z_2 が 1 次独立であるかどうか調べよ。
- (4) W の基底を自分で 1 つ選び、それが実際に基底になっている事を示せ。

(1) O を恒等的に 0 である写像とすると $O'' - 4O' + 5O = 0$ なので $O \in W$ となり、 $W \neq \emptyset$ となる。 W の任意の元 y, z に対し $y'' - 4y' + 5y = 0, z'' - 4z' + 5z = 0$ が成立している。 $(y+z)' = y' + z'$ 及び $(y+z)'' = y'' + z''$ が成立するので、 $(y+z)'' - 4(y+z)' + 5(y+z) = y'' + z'' - 4y' - 4z' + 5y + 5z = (y'' - 4y' + 5y) + (z'' - 4z' + 5z) = 0 + 0 = 0$ となり、 $y+z \in W$ となる。 W の任意の元 y と任意の実数 α に対し $(\alpha y)' = \alpha y'$ 及び $(\alpha y)'' = \alpha y''$ が成立しているので、 $(\alpha y)'' - 4(\alpha y)' + 5(\alpha y) = \alpha y'' - 4\alpha y' + 5\alpha y = \alpha(y'' - 4y' + 5y) = \alpha \cdot 0 = 0$ となり、 $\alpha y \in W$ となる。以上により W が V の部分空間である事が示される。

(2) $a_1 y_1 + a_2 y_2 = 0$ が成立しているとする。 x で微分すると $a_1 y_1' + a_2 y_2' = 0$ を得る。両式に $x = 0$ を代入すると、 $a_1 + a_2 = 0$ 及び $a_1 - a_2 = 0$ を得る。これより $a_1 = a_2 = 0$ となるので、 y_1, y_2 は 1 次独立である。

(3) $z = z_1 + z_2$ とおくと z は微分方程式の解関数であり、 $z(0) = z_1(0) + z_2(0) = 0, z'(0) = z_1'(0) + z_2'(0) = 0$ を満たす。恒等的に 0 である関数 O も微分方程式の解であり、 $O(0) = 0, O'(0) = 0$ なので、定理より z と O は等しい。よって z_1, z_2 は 1 次独立ではない。

(4) $S = \{y_1, y_2\}$ とする。 S の 1 次独立性はすでに示した。 $y_1, y_2 \in W$ なので $\langle S \rangle \subseteq W$ となる。 y を W の任意の元とする。

$$z = \frac{y(0) + y'(0)}{2} y_1 + \frac{y(0) - y'(0)}{2} y_2$$

とおくと、 $z(0) = y(0), z'(0) = y'(0)$ であり、ともに微分方程式の解関数になっている。よって定理より、 $y = z$ となる。 $y \in \langle S \rangle$ となるので、 $W = \langle S \rangle$ となり、併せて S が基底である事が示される。

3 線型空間 L の内積とは次の条件を満たす (x, y) であった。

L の各元 x, y, z と K の元 α に対し次が成立する。ただし \bar{z} は z の共役複素数を表す。

(1) (正値性) $(x, x) \geq 0$ であり, $(x, x) = 0$ になるのは $x = 0$ に限る。

(2) (共役対称性) $\overline{(y, x)} = (x, y)$

(3) (線型性)

1) $(x + y, z) = (x, z) + (y, z)$

2) $(\alpha x, y) = \alpha(x, y)$

このとき次を示せ。

(1) 任意の $x \in L$ に対し $(0, x) = 0$ が成立する。

(2) 任意の $x, y, z \in L$ に対し $(x, y + z) = (x, y) + (x, z)$ が成立する。

(3) 任意の $x, y \in L$ と任意の $\alpha \in K$ に対し $(x, y) = \overline{\alpha(x, y)}$ が成立する。

試験のときに訂正しましたが (3) は $(x, \alpha y) = \overline{\alpha(x, y)}$ です。

(1) $(0, x) = (0 + 0, x) = (0, x) + (0, x)$ となるので, 両辺から $(0, x)$ を引いて $(0, x) = 0$ を得る。

(2) 共役複素数に関しては $\overline{z_1 + z_2} = \bar{z}_1 + \bar{z}_2$ 及び $\overline{z_1 z_2} = \bar{z}_1 \cdot \bar{z}_2$ が成立する。

$$\begin{aligned}(x, y + z) &= \overline{(y + z, x)} = \overline{(y, x) + (z, x)} \\ &= \overline{(y, x)} + \overline{(z, x)} \\ &= (x, y) + (x, z)\end{aligned}$$

となる。

(3)

$$\begin{aligned}(x, \alpha y) &= \overline{(\alpha y, x)} \\ &= \overline{\alpha(y, x)} \\ &= \overline{\alpha} \overline{(y, x)} \\ &= \overline{\alpha} (x, y)\end{aligned}$$

となる。

裏にも問題あり

学 科		在 番 籍 号		氏 名	
--------	--	------------------	--	--------	--

4 計量線型空間 L 上の線型写像 T が任意の $x, y \in L$ に対し

$$(T(x), y) = (x, T(y))$$

を満たすときエルミート変換という。

(1) λ を T の固有値とするとき, λ は実数である事を示せ。

(2) λ_1, λ_2 を T の相異なる固有値とし, x_1 を λ_1 に属する T の固有ベクトル, x_2 を λ_2 に属する T の固有ベクトルとする。 x_1 と x_2 が直交する ($(x_1, x_2) = 0$ となる事を意味する) 事を示せ。

(1) λ を T の固有値とし, x を λ に属する T の固有ベクトルとする。定義により $x \neq 0$ である。

$$\begin{aligned}\lambda(x, x) &= (\lambda x, x) \\ &= (T(x), x) \\ &= (x, T(x)) \\ &= (x, \lambda x) \\ &= \bar{\lambda}(x, x)\end{aligned}$$

が成立する。 $(x, x) \neq 0$ より両辺を (x, x) で割ると $\lambda = \bar{\lambda}$ が得られる。よって λ は実数である。

(2)

$$\begin{aligned}\lambda_1(x_1, x_2) &= (\lambda_1 x_1, x_2) \\ &= (T(x_1), x_2) \\ &= (x_1, T(x_2)) \\ &= (x_1, \lambda_2 x_2) \\ &= \bar{\lambda}_2(x_1, x_2) \\ &= \lambda_2(x_1, x_2)\end{aligned}$$

より $(\lambda_1 - \lambda_2)(x_1, x_2) = 0$ を得る。 $\lambda_1 - \lambda_2 \neq 0$ より $(x_1, x_2) = 0$ となる。

5 授業についての感想, 数学について思う事などがあれば記せ (10)。

ここは内容に関係なく書いてあれば括弧内の点数が与えられます。このような項目を設けているのは, 次回以降の講義の参考にするためです。出席していない人には答えようがないので, 「数学について思うこと」という項目を加えています。